

# エコアクション21 2023年度 環境経営レポート



対象期間 (2023年4月～2024年3月)

報告日 2024(令和6)年4月30日



# 目 次

1. 組織の概要	.....1P
(1)事業所名及び代表者名	
(2)所在地	
(3)環境管理責任者及び担当者連絡先	
(4)事業の概要及び規模	
(5)会社の歴史	
2. EA21対象範囲	.....2P
3. 環境経営方針	.....3P
4. 環境経営目標	.....4P
5. 環境経営計画	.....5P
6. 環境経営計画に基づき実施した主な取組内容	.....6P
7. 環境経営目標の実績と評価	.....7P
8. 環境経営目標実績に対する次年度の取組内容	.....8~9P
9. 環境関連法規制への違反、訴訟などの有無	.....10P
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	.....11P

# 1. 組織の概要

## (1)事業所名及び代表者名

山村産業株式会社  
代表取締役社長 堀 賢一

## (2)所在地

本社 〒870-0146 大分県大分市乙津港町一丁目6番29号

つるみ倉庫 〒876-1201 大分県佐伯市鶴見大字吹浦1083番地

## (3)環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 生産管理部 部長 (兼事務局、連絡担当者)  
連絡先 TEL 097-558-9000  
FAX 097-558-8514

## (4)事業の概要及び規模

1)業務内容 ○段ボールケースの製造販売 ○発泡スチロールの製造販売  
○気泡緩衝材の販売、各種梱包包装資材の販売

2)資本金 40,000千円

3)従業員 27名

4)年間売上高 6.22億円(2024年3月期) 6.08億円(2023年3月期) 4.99億円(2022年3月期)

5)会計年度 期首4月 期末3月

6)創業 1956年(昭和31年)2月

7)設立 1961年(昭和36年)1月

8)株主 日之出紙器工業株式会社(株主1名・株式100%)

9)主要得意先 二階堂酒造(有) 大分県漁協(株アムコーテクノロジージャパン)

10)主要仕入先 日之出紙器工業(株) 川上産業(株) (株)JSP

## (5)会社の歴史

1956年(昭和31年)山村君子が鶴崎木材工業所を創業し蒲鉾板を製造

1961年(昭和36年)現在の山村産業株式会社を資本金2,000千円で設立

1962年(昭和37年)段ボールケースの製造販売を開始

シートは聯合紙器株式会社(現在のレンゴー株式会社)から購入

1970年(昭和45年)発泡スチロールの製造販売を開始

1973年(昭和48年)FRP浄化槽他製造販売の山村環境機器株式会社を設立

1976年(昭和51年)労働省(当時)より身障者雇用モデル工場の指定を受ける

1985年(昭和60年)エアキャップの製造販売を開始

発泡スチロール製造販売のつるみ化成工業株式会社を県南地区に設立

1988年(昭和63年)山村環境機器株式会社を株式会社サンパックに社名変更

1989年(平成元年)エアキャップの製造を株式会社サンパックに移管

2002年(平成14年)つるみ化成工業株式会社を閉鎖

2006年(平成18年)日之出紙器工業株式会社が当社の全株式を買い取り子会社化

※ 株式会社サンパックは買収の対象から除外(翌年事業停止)

2008年(平成20年)ISO9001:2008/JISQ9001:2008の認証を取得

認証番号2585945 初回登録2008年07月07日

有効期限2014年07月06日 継続辞退

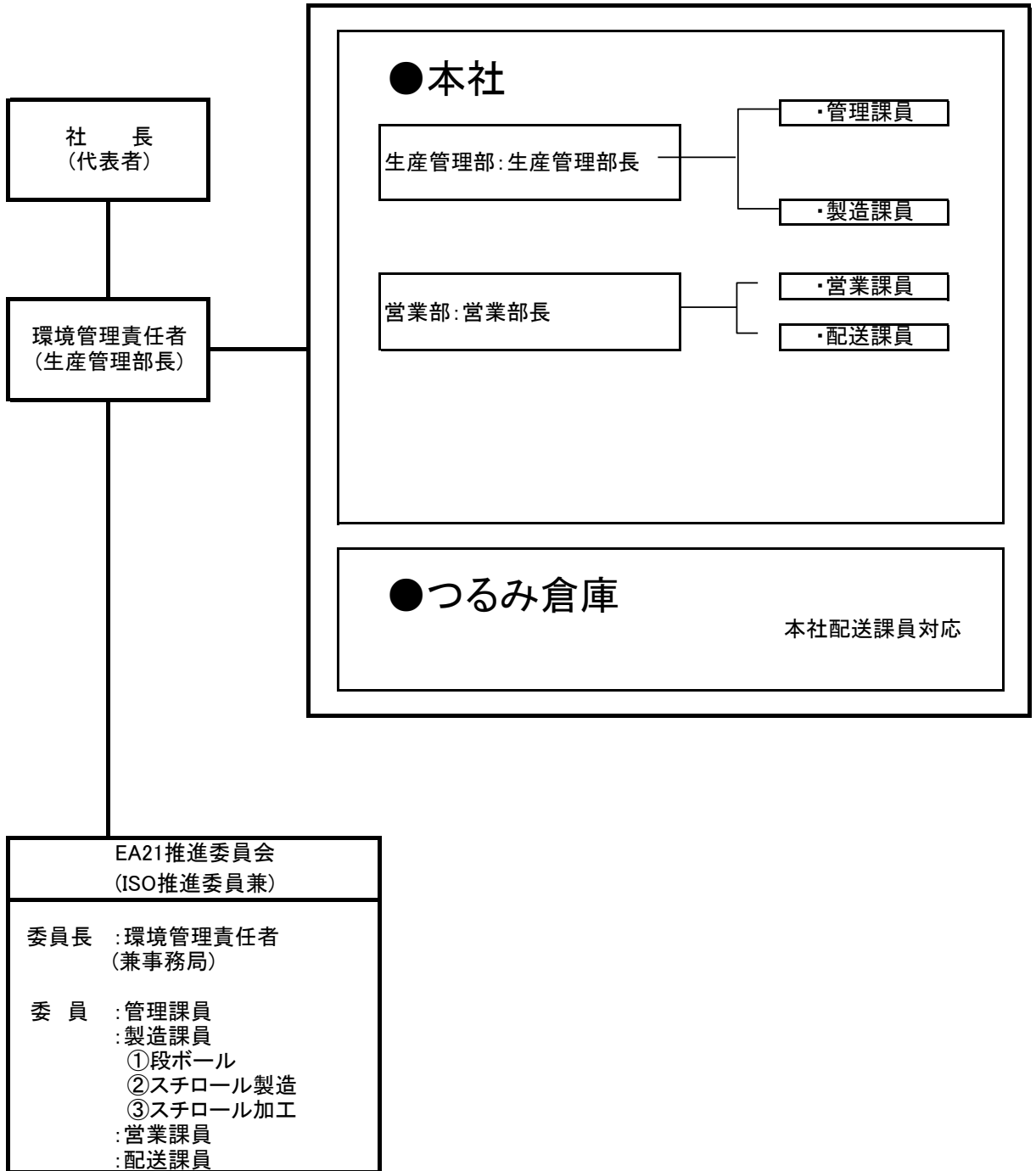
2012年(平成24年)エコアクション21の認証を取得

認証番号0008672 初回登録2012年09月05日

有効期限2024年09月04日

## 2. EA21対象範囲

認証・登録範囲 全組織・全事業活動



# 3. 環境経営方針

## 基本理念

山村産業株式会社は地球環境の大切さを認識し、環境の保全を考慮した企業活動を全従業員で行い、持続的発展が可能な資源循環型社会の構築に貢献します。

---

## 基本目標

1. 環境保全活動を会社経営の重点課題とし、様々な機会を通じて取り組めます。
  2. 環境経営目標を設定し、定期的な見直しと継続的な改善に取り組めます。
  3. 環境関連法令・協定等を遵守します。
  4. 汚染の予防に取り組めます。
- 

## 行動指針

1. 二酸化炭素排出量の削減及び水資源の節約に努めます。
2. 省エネルギー活動として、電気使用量の削減に努めます。
3. 物流効率化・営業効率化による環境負荷の軽減に努めます。
4. グリーン調達を心掛け安全で環境負荷の少ない資材調達に努めます。
5. 廃棄物の削減とリサイクルを促進し環境保護に努めます。
6. 地球環境に配慮した製品の販売に努めると共に顧客に提案して行きます。
7. 化学物質を適正に管理します。
8. 環境経営方針は、全従業員に周知させるため教育を積極的に行います。
9. 環境経営方針は、全ての方に開示します。

制定日2011年9月1日  
更新日2020年4月1日  
山村産業株式会社  
代表取締役社長  
堀 賢一

## 4.環境経営目標(中期環境目標)

番号	項目	実績(基準)	環境目標		
		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2 386,612	基準年度実績▲1% 382,746	基準年度実績▲2% 378,880	基準年度実績▲3% 375,014
1-1	電気使用量の削減(原単位)  EPS'=(電気使用量/生産量)kwh/t  DB'=(電気使用量/生産量)kwh/m <sup>2</sup>	2,920.6  0.0248	基準年度実績▲1% 355,354kw  2,891.4  基準年度実績▲1% 0.0246	基準年度実績▲2% 351,764kw  2,862.2  基準年度実績▲2% 0.0243	基準年度実績▲3% 348,175kw  2,833.0  基準年度実績▲3% 0.0241
1-2	ガソリン使用量の削減(原単位)  =(ガソリン使用量/自製売上高)L/千円	7,638L  0.0193	基準年度実績▲1% 7,562L  0.0191	基準年度実績▲2% 7,485L  0.0190	基準年度実績▲3% 7,409L  0.0188
1-3	軽油使用量の削減(原単位)  =(軽油使用量/自製売上高)L/千円	26,812L  0.0679	基準年度実績▲1% 26,544L  0.0672	基準年度実績▲2% 26,276L  0.0665	基準年度実績▲3% 26,008L  0.0659
1-4	A重油使用量の削減(原単位)  =(A重油使用量/EPS生産量)t	60,000L  535.7140	基準年度実績▲1% 59,400L  530.3569	基準年度実績▲2% 58,800L  524.9997	基準年度実績▲3% 58,200L  519.6426
2	廃棄物排出の削減				
2-1	①段ボール屑	604kg	リサイクル率100% の維持	リサイクル率100% の維持	リサイクル率100% の維持
2-2	②廃プラ(スチロール)	7,230kg	リサイクル率100% の維持	リサイクル率100% の維持	リサイクル率100% の維持
2-3	③廃プラ(ビニール)	1,670kg	リサイクル率100% の維持	リサイクル率100% の維持	リサイクル率100% の維持
3	水使用量の削減  =(水使用量/EPS生産量)m <sup>3</sup> /t	3,404m <sup>3</sup>  30.400	基準年度実績▲1% 3,370m <sup>3</sup>  30.096	基準年度実績▲2% 3,336m <sup>3</sup>  29.792	基準年度実績▲3% 3,302m <sup>3</sup>  29.488
4	グリーン製品の購入  事務用品購入率	62%  59/95件	63%	64%	65%
5	顧客への環境啓発 (環境配慮商品販売)	-	地球環境に配慮 した商品の提案	地球環境に配慮 した商品の提案	地球環境に配慮 した商品の提案
6	化学物質の適切な管理	-	管理状況確認  1回/月	管理状況確認  1回/月	管理状況確認  1回/月
7	地域の清掃  クリーン作戦	-	清掃  2回/年	清掃  2回/年	清掃  2回/年

(注記) 電気の二酸化炭素排出係数は、2021年度実績九州電力の調整後排出係数0.382を使用した。

## 5. 環境経営計画

項目	具体的な活動(=達成手段)	推進責任者	事務所	現場			スケジュール	
				営業・配送	段ホール	スチロール		
省エネ (電力使用量の削減)	■ 昼休みの消灯	事務所: 岡本 ----- (賀来) 営業: 渡部 配送: 首藤 段ホール: 綾野 スチロール: 屋野	○	○	○	毎日		
	■ 使用時以外のトイレ、会議室の消灯		○	○	○	毎日		
	■ 冷暖房設定温度の厳守		○	○	○	毎日		
	■ OA機器の退社時の電源オフ		○			毎日		
	■ 空調機フィルターの定期的清掃		○	○	○	6月、12月		
	■ 省エネステッカーによる目で見える周知		○	○	○	毎日		
	■ 日よけ、ブラインドによる室温上昇防止		○			6月～10月		
省資源 (ガソリン・軽油 使用量の削減)	■ 効率的配送計画の実施	営業: 渡部 配送: 首藤		○		毎日		
	■ 経済運転の推進(急発進、急停止の禁止、アイドリング)			○		毎日		
	■ 法定速度の遵守			○		毎日		
	■ 車両点検の実施(適正空気圧、異常が無いこと)			○		毎日		
	■ 省資源化ステッカーによる目で見える周知(2012.1.10配布)			○		毎日		
一般廃棄物	■ 社内情報のペーパーレス化(社内メール、掲示板の活用)	事務所: 岡本 ----- (賀来) 段ホール: 綾野 スチロール: 屋野	○	○	○	○	適時	
	■ 裏紙使用の推進		○	○	○	○	毎日	
	■ ゴミの分別の徹底		○	○	○	○	毎日	
	■ ゴミ分別、リサイクル等のステッカーによる周知		○	○	○	○	毎日	
産業廃棄物	■ 産業廃棄物の分別	段ホール: 則岡 スチロール: 屋野	○	○	○	○	適時	
	■ リサイクル、再資源化の推進、加工カット屑再利用				○	○	毎日	
	■ 産業廃棄物置場の適正な管理				○	○	適時	
水使用量の削減	■ 節水の推進	事務所: 岡本 ----- (賀来) 段ホール: 綾野 スチロール: 屋野	○	○	○	○	毎日	
	■ 節水ステッカーによる目で見える周知		○		○	○	毎日	
	■ 水系への環境負荷物質の漏洩防止				○	○	毎日	
	■ 漏水箇所の補修、定期漏水チェックの実施		○		○	○	適時	
グリーン調達	■ エコマーク、グリーンマーク表示製品の購入推進	事務所: 岡本 ----- (賀来)	○				購入時	
	■ 再生紙の購入推進		○				購入時	
	■ リサイクル製品の購入推進		○				購入時	
	■ 詰め替え可能な製品の購入推進		○				購入時	
顧客への環境啓発 (環境配慮商品販売)	■ 地球環境に配慮した商品の販売促進	営業: 渡部		○			適時	
	■ 地球環境に配慮した商品の顧客への啓発			○			適時	
	■ リサイクルマーク製品表示の推進			○			適時	
化学物質管理	■ 置場の整理整頓の実施	段ホール: 綾野 スチロール: 屋野 ----- (椎原)			○	○	毎日	
	■ 使用量・在庫チェックの実施(記録管理)				○	○	月末	
	■ SDSの取り寄せと内容の理解					○	○	適時
	■ 環境法規の実施					○	○	適時
地域の清掃 クリーン作戦	地域清掃の計画の立案(適時)	管理責任者	○				適時	
	地域清掃の実施(適時)	EA21推進責任者	○	○	○	○	適時	
	日頃からの清掃の実施		○	○	○	○	適時	

## 6. 環境経営計画に基づき実施した主な取組内容

項目	具体的な活動(=達成手段)	推進責任者	事務所	現場			実施結果
				営業・配送	段ホール	スチロール	
省エネ (電力使用量の削減)	■ 昼休みの消灯	事務所: 岡本 ----- (賀来) 営業: 渡部 配送: 首藤 段ホール: 綾野 スチロール: 屋野	3	/	3	3	達成
	■ 使用時以外のトイレ、会議室の消灯		3	/	3	3	達成
	■ 冷暖房設定温度の厳守		3	/	3	3	達成
	■ OA機器の退社時の電源オフ		3	/	/	/	達成
	■ 空調機フィルターの定期的清掃		3	/	3	3	達成
	■ 省エネステッカーによる目で見える周知		3	/	3	3	達成
	■ 日よけ、ブラインドによる室温上昇防止		3	/	/	/	達成
省資源 (ガソリン・軽油 使用量の削減)	■ 効率的配送計画の実施	営業: 渡部 配送: 首藤	/	3	/	/	達成
	■ 経済運転の推進(急発進、急停止の禁止、アイドリング)		/	3	/	/	達成
	■ 法定速度の遵守		/	3	/	/	達成
	■ 車両点検の実施(適正空気圧、異常が無いこと)		/	3	/	/	達成
	■ 省資源化ステッカーによる目で見える周知(2012.1.10配布)		/	3	/	/	達成
一般廃棄物	■ 社内情報のペーパーレス化(社内メール、掲示板の活用)	事務所: 岡本 ----- (賀来) 段ホール: 綾野 スチロール: 屋野	3	2	2	2	達成
	■ 裏紙使用の推進		3	3	3	3	達成
	■ ゴミの分別の徹底		3	3	3	3	達成
	■ ゴミ分別、リサイクル等のステッカーによる周知		3	3	3	3	達成
産業廃棄物	■ 産業廃棄物の分別	段ホール: 則岡 スチロール: 屋野	3	3	3	3	達成
	■ リサイクル、再資源化の推進、加工カット屑再利用		/	/	3	3	達成
	■ 産業廃棄物置場の適正な管理		/	/	3	3	達成
水使用量の削減	■ 節水の推進	事務所: 岡本 ----- (賀来) 段ホール: 綾野 スチロール: 屋野	3	3	3	3	達成
	■ 節水ステッカーによる目で見える周知		3	/	3	3	達成
	■ 水系への環境負荷物質の漏洩防止		/	/	3	3	達成
	■ 漏水箇所の補修、定期漏水チェックの実施		3	/	3	3	達成
グリーン調達	■ エコマーク、グリーンマーク表示製品の購入推進	事務所: 岡本 ----- (賀来)	3	/	/	/	達成
	■ 再生紙の購入推進		0	/	/	/	未達
	■ リサイクル製品の購入推進		3	/	/	/	達成
	■ 詰め替え可能な製品の購入推進		3	/	/	/	達成
顧客への環境啓発 (環境配慮商品販売)	■ 地球環境に配慮した商品の販売促進	営業: 渡部	/	3	/	/	達成
	■ 地球環境に配慮した商品の顧客への啓発		/	3	/	/	達成
	■ リサイクルマーク製品表示の推進		/	3	/	/	達成
化学物質管理	■ 置場の整理整頓の実施	段ホール: 綾野 スチロール: 屋野 ----- (椎原)	/	/	3	3	達成
	■ 使用量・在庫チェックの実施(記録管理)		/	/	3	3	達成
	■ SDSの取り寄せと内容の理解		/	/	3	3	達成
	■ 環境法規の実施		/	/	3	3	達成
地域の清掃 クリーン作戦	地域清掃の計画の立案(適時)	管理責任者	3	/	/	/	達成
	地域清掃の実施(適時)	EA21推進責任者	3	/	/	/	達成
	日頃からの清掃の実施		3	3	3	3	達成

評価点数[3]:良くできた [2]:ある程度できた [1]:少しできた [0]:出来なかった



## 6. 環境経営目標の実績と評価

番号	項目	単位	2022年度	2023年度		達成度	判定	評価内容
			実績(基準)	目標	実績			
1	二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO2	386,612	382,746	395,947	97%	△	1.CO2排出量 A重油使用量増加に伴い排出量も増加した。 1-1.電気使用量 EPS生産量基準年比83%と減少。使用量も、83%と減少した。原単位評価については、DBは生産効率が基準年比101%と向上した事により(達成)、EPSは生産効率が低下(原単位基準年比86%)した事により未達成となった。主要因は、ブロック生産量13t減少。(基準年比60%) 1-2.ガソリン使用量 燃費は基準年比15.2→14.8とエコ運転に努め維持(営業車のみ)。 1-3.軽油は前年に対して燃費は6.8→7.0とエコ運転に努め維持。原単位評価は(99%)ほぼ達成である。走行距離については、基準年比94% 自製売上高基準年比98%と減少となっている。
1-1	電気使用量の削減	kwh	358,943	355,354	344,022	103%	○	
	EPS(原単位)'=(電気使用量/生産量)kwh/t	kwh/t	2920.6	2891.4	3351.2	86%	△	
	DB(原単位)'=(電気使用量/生産量)kwh/m <sup>2</sup>	kwh/m <sup>2</sup>	0.0248	0.0246	0.0244	101%	○	
1-2	ガソリン使用量の削減	L	7,638	7,562	7,760	97%	△	
	(原単位)'=(ガソリン使用量/自製売上高)L/千円		0.0193	0.0191	0.0201	95%	△	
1-3	軽油使用量の削減	L	26,812	26,544	26,227	101%	○	
	(原単位)'=(軽油使用量/自製売上高)L/千円		0.0679	0.0672	0.0680	99%	△	
1-4	A重油使用量の削減	L	60,000	59,400	66,000	90%	△	1-4.A重油使用量は、2022年度より貫流ボイラー新設により発生した。2023年度より環境経営目標に設定し削減に取り組んだが、木屑ボイラー稼働時間の減少に伴い(燃料としている木製パレットの減少)、重油使用量が増加した結果となった。
	(原単位)'=(重油使用量/EPS生産量t)		535.7140	530.3569	709.7121	75%	×	
2	廃棄物排出の削減							廃棄物排出量削減 2-1.基準年に対してロス率が減少し排出量(227kg)が減少した。 2-2.減容機によりインゴット化し有価物とし完全リサイクル。 2-3.ビニール袋使用スチロール生産量は増加したが排出量は減少した。これは、ストレッチフィルム、透明ビニール袋については、転売とし削減できた。
2-1	①段ボール屑(有価物)	kg	リサイクル率 100% (604)	リサイクル率 100%	リサイクル率 100% (377)	100%	○	
2-2	③廃プラ(スチロール) インゴット有価物	kg	リサイクル率 100% (7,230)	リサイクル率 100%	リサイクル率 100% (11,170)	100%	○	
2-3	③廃プラ(ビニール) (つるみ事業所含む)	kg	リサイクル率 100% (1,670)	リサイクル率 100%	リサイクル率 100% (1,150)	100%	○	
3	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	3,404	3,370	3,411	99%	△	スチロール生産量は基準年比83%と減少したため、使用量も100%と同等。原単位評価は、ブロック生産量の減少(基準年比603%)により原単位評価で未達成となった。また、スチーム漏れは正及び、配管保温により効率の良い生産状況となった。また、2023年度より重油燃料の貫流ボイラーを新設したため、自動ブローにより水使用量が10%増加し、木屑ボイラー稼働時間の減少に伴い貫流ボイラーの稼働時間が増加したため、生産量の減少に比例しなかった
	原単位=(水使用量(蒸気ボイラーのみ)/EPS生産量)m <sup>3</sup> /t		30.400	30.0959	32.114	94%	△	
4	グリーン製品の購入 文具関係	件	62% 50/80件	63% -	63% 50/80件	100%	○	文具類購入件数合計80件に対して50件であった。
5	顧客への環境啓発 (環境配慮商品販売)		地球環境に配慮 した商品の提案	提案実施	実施	100%	○	環境配慮商品の提案を商談の機会ごとに実施中である。
6	化学物質の適切な管理		管理状況確認 1回/月	管理実施	実施	100%	○	化学物質の使用量管理を今後も継続する。
7	地域の清掃 クリーン作戦		清掃 2回/年	清掃 2回/年	周辺道路の清掃実施 2回 2023/4/1~ 2024/3/30	100%	○	少人数にて毎月実施した。

(注記)電気の二酸化炭素排出係数は、2021年度実績九州電力の調整後排出係数0.382を使用した。

評価:○良好(目標以上を達成)、△やや問題(85%以上を達成)、×問題(達成度が85%未満)

## 7. 環境経営目標実績に対する次年度の取組内容

取組項目	評価及び今後の取組内容
1. 二酸化炭素排出量の削減	EPS部門については、原単位評価86%で未達成となった。主な要因は生産効率の高いブロック成形品の減少。DB部門については、原単位評価で101%と達成。主な要因は、多能工化推進により生産効率向上(総操業時間の短縮)による。
1-1. 電気使用量の削減	<p>今後の取組内容</p> <p>①原単位評価達成であったDB部門について、作業効率の向上に、継続して取り組む。2019年7月に導入した、高効率設備(印刷機)の稼働効率をさらに向上させる。 ②EPS部門については、放熱ロス削減し効率の良い生産を維持する。また、ブロック成形品の完全自製化を継続する。</p>
1-2. ガソリン使用量の削減	<p>燃費前年比較(15.2→14.8とエコドライブの意識が定着している。現在ガソリン使用は、営業車のため使用量の削減は難しいことから評価は、燃費にて確認する。</p> <p>今後の取組内容</p> <p>①エコドライブを心がけ継続して取り組む。 ②効率の良い訪問ルートに取り組む。</p>
1-3. 軽油使用量の削減	<p>自社便での配送量減少により走行距離は、基準年比94%と減少。燃費基準年比較(6.8→7.0)とエコドライブの効果が定着している。また、ドライブレコーダーにより速度上限を設定する事で燃費向上を図ったことにより効果が確認できた。</p> <p>今後の取組内容</p> <p>①エコドライブを心がけ継続して取り組む。 ②少量の配送については、1.5t車の利用を推進する。</p>
2. 廃棄物排出の削減	DB部門での生産量は、基準年比113%と増加だったが、ロス率が改善され、排出量(基準年比63%)が減少した。
2-1. 段ボール屑	<p>今後の取組内容</p> <p>①DB製造技術の向上による人的ミスを減少させる。 ②製造設備トラブルを減少させ、ロス率の削減に取り組む。 ③100%リサイクルの推進を継続して取り組む。</p>
2-2. 廃プラ(スチロール)(つるみ事業所含む)	<p>本社EPS部門での廃プラ削減の為に、減容機を購入しインゴットを生成する方式に改善し原材料として販売を継続中です。</p> <p>①自動二次元加工機の導入(2017/2)により発泡スチロール屑の排出量削減に取り組んだ。現在の稼働 95%/月と自動加工による商品数が増加し、ロス率の低減を推進中。 ②成形品ロス率については、0.09%/月平均⇒0.09%/月平均と継続し排出量の減少が図れた。</p> <p>今後の取組内容</p> <p>①EPS製造技術の向上による人的ミスを減少させる。 ・ロス率目標値を0.1%に設定し継続改善に取り組む。 ②100%リサイクルの推進を継続して取り組む。</p>

取組項目	評価及び今後の取組内容
2-3. 廃プラ(ビニール)	排出量は基準年比(69%)と減少した。2022年度以降は、ストレッチフィルム、透明ビニール袋は、有価物として継続中。
	今後の取組内容
	①梱包時のストレッチフィルム巻量の適正化を継続する。
	②100%リサイクルの推進を継続して取り組む。
3. 水使用量の削減	生産量が減少(基準年比83%)したが、使用量は基準年比100%と低効率の生産状況であった。主要因は、ブロック成形品の生産増が影響している。ブロックは購入品から自製化を推進した。
	今後の取組内容
	①水漏れ、蒸気漏れを日々チェックし、補修作業の敏速化に取り組む。
	②定期的に金型改修を計画し実施する。
4. グリーン製品の購入	事務用品等の購入品について、目標値に対して調達率は100%であった。
	今後の取組内容
	事務用品等の購入品について、グリーン商品購入推進に取り組む。
5. 顧客への環境啓発	顧客からの商品の問合せの都度、環境に配慮した商品を探し提案していく営業活動を都度推進をしているが、商談の成立にはなかなか結び付かない難しい面がある。根気良く取り組む。
	今後の取組内容
	①環境への配慮商品の情報を積極的に入手し、顧客のニーズに応えていく。 ②日常の顧客啓発を推進していく。
6. 化学物質の適切な管理	化学物質はボイラー用清缶剤及びシンナー。適切に遵守している。油圧オイル及びインク洗浄液も汚染の原因になるので、化学物質と共に漏洩防止に取り組んだ。排水ろ過設備の維持を継続。
	今後の取組内容
	法規制を遵守すると共に漏洩防止を徹底していく。
7. 社会との協調 地域の清掃(クリーン作戦)	積極的な取り組みにより目標を達成した。工場周辺の地域清掃活動を少人数での清掃(1回/月)を実施した。
	今後の取組内容
	継続して取り組む。

## 8. 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

環境関連法規等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規等は遵守されていました。尚、関係機関及び工場近隣からの指摘、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

法的義務を受ける環境関連法規等は次の通りです。

環境法規制等の名称	対象設備、施設	遵守事項等	遵守状況
廃棄物処理法	産業廃棄物 ①廃プラ ②燃え殻 ③インク脱水汚泥	1.産業廃棄物置場の表示	○
		2.マニフェスト伝票の管理	○
		3.委託契約書、処理業許可証の管理	○
		4.委託業者への適切な処理の委託	○
		5.管理表交付状況報告書の提出(大分市役所)	○
		6.分別、清掃の実施、飛散、漏洩の防止	○
騒音規制法	①コンプレッサー(2台) ②原動機:7.5KW以上 設備	1.特定施設設置(使用)届出(市役所)	○
		(自主規制)	○
		1.異常音発生時の停止、修理	○
大気汚染防止法	①木屑ボイラー	1.煤煙測定(2回/年)	○
浄化槽法	事務所50人槽	1.水質検査(1回/年)	○
労働安全衛生法 ボイラー則	①木屑ボイラー ②予備発泡機 ③アキュムレータ	1.性能検査(1回/年)	○
		2.性能検査(1回/年)	○
		3.性能検査(1回/年)	○
消防法	工場建屋、事務所棟、 倉庫	1..消火器の設置	○
		2.非常口の確保	○
		3.火災発生時の安全な避難と119番通報	○
		4.消防設備定期点検	○
	指定可燃物置場	1.指定可燃物貯蔵取扱届出	○
		2.火災防止基準の遵守	○
3.貯蔵基準の遵守		○	
フロン排出抑制法	小型エアコン	1.点検・清掃(1回/3ヶ月)	○

## 9. 代表者による全体の評価と見直し

1. 結果報告 報告: 2024年4月30日 環境管理責任者 生産管理部 部長

No.	評価事項	代表者指示事項	改善内容	期限	改善責任者
1	環境関連法規等の遵守状況 ・遵守できている。	法規制は改正や新規規定に気を付けること。 確実に遵守すること。 フロン排出抑制法の対象設備調査(簡易点検)	特に無し チェックリストに基づき 継続。 点検チェックリスト実施	-	
2	環境目標の達成度 生産量増加により概ね達成した。 ①電気、水、ガソリン、軽油、の使用量削減は概ね達成した。 ②その他の環境目標のグリーン商品購入及び環境配慮商品の提案、販売を機会毎に行う。 ③環境活動推進スケジュールに沿って教育訓練を確実に実施して行く。	製造部門については、原単位評価でほぼ達成でき 今後も生産効率向上を推進すること。 配送、営業は、エコドライブが遵守され、燃費効率も定着しています。継続して取り組むこと。 環境活動は定着化が重要だと認識すること。 文具類のグリーン商品対象品の選定65% 教育訓練を継続的に実施して行くこと。	・行動計画書 達成手段の具体化。 継続改善の実施 特に無し	毎月推進 会議にて 確認。	推進委員
3	環境に関する苦情や要望対応状況	過去に発生した苦情に対しての対策を 継続実施していくこと。	特に無し		
4	是正処置、予防処置について ①軽油使用量についてドライブレコーダーにより個人ごとに遵守状況を確認。 ②設備改善の実施状況を確認。	問題発生時の是正処置を確実に実施すること。	・行動計画書の 達成手段の具体化。	毎月推進 会議にて 確認。	推進委員
5	前回の代表者の指示事項への対応	特になし	特に無し	-	
6	その他指示事項	特になし	特に無し	-	

2. 全体の評価と見直し 実施日: 2024年4月30日 代表取締役 堀 賢一  
全体の評価

1. EA21の運用開始から、12年が経過し環境への取り組みは定着している。 今後は、更なる発展の為、生産効率向上改善(小集団活動)及び生産設備の維持管理を徹底し省エネに取り組みます。
2. 発泡スチロール製造に必要な蒸気ボイラー(燃料LSA重油)新設に伴い二酸化炭素排出量(全体の43%)が増加した。 今後、木屑ボイラーの稼働を優先的に考え木材パレットの調達を継続し、二酸化炭素排出量の削減に取り組む。
3. 電気使用量について、多能工化推進により、発泡スチロール部門の原単位評価では、ブロック生産量の減少により未達成となったがコンプレッサーの更新により使用量の削減が図れた。

### 見直し事項

No.	環境マネジメントシステムの見直し事項	見直し結果	改善内容	期限	改善責任者
1	環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画の実施体制	特に無し	特に無し	-	
2	環境経営システムの変更の必要性	特に無し	特に無し	-	
3	その他	特に無し	特に無し		